

英語科学習指導案

広島市立広島中等教育学校

- 1 日時・場所 令和元年11月6日(水) 10:15~11:05 会場 ホール
- 2 学年・学級 1年2組(男子10名 女子20名 計30名)
- 3 単元名 ONE WORLD English Course1 (教育出版) Lesson7 マンガ大好き
- 4 単元について

(1) 教材観

本単元は、主にボブがクラスメイトに自分の好きな日本のマンガについてイラストを見せながら紹介している場面で構成されている。その中で、**can**や**can't**を用い、好きなキャラクターの特徴や性質などを具体的に表現している。このことから、自分の興味のあることや身のまわりの人や物について、自分の考えや気持ちなどをまとめ、言葉で説明するのに適している題材であると言える。また、海外における日本のマンガブームについて紹介していることから、日本文化の良さについて生徒に再認識させることもできる。

以上のことから本単元では、「ある場所や物について、その特徴等を具体的に示しながら、発表する力」を育みたい。これは、中学校学習指導要領(平成29年告示)外国語編の「話すこと(発表)」(イ)の「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする」に基づいている。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、英語を苦手と感じている生徒も含め全員が授業に前向きに取り組む。お互いに教え合い、支え合い、そして褒め合いができ、クラスに温かい雰囲気をもって授業に向かう姿勢ができている。授業後に質問に来たり、英語練習ノートなどの家庭学習も丁寧に取り組んだりなど、英語学習に対する高いモチベーションがある。

「話すこと」では、意欲的かつ積極的に授業で英語を使おうとしている。特に、半数以上の生徒が意識して日本語を使わないようにしたり、教師が指示を出さなくても自然にちょっとした場面で、英語でやりとりしたりしている場面が見られる。

しかしペアや少人数では、笑顔で間違いを恐れず話しているものの、大勢の前で話したりすることには抵抗を感じている生徒が多いことが意識調査から分かった。

5月上旬からチャット(その場でトピックを与え、やりとりする)に取り組み始め、ペアで1分程度はやりとりが続くレベルになった。発話内容も単語レベルから文レベルで表現することや、接続詞を用いて文と文のつながりを意識した英文を積極的に活用するようになってきた。また、既習事項を駆使しながら、表現ができるようになりつつある。しかし、以下の意識調査によると、半数以上の生徒が、話し手の英語に反応しようとする意識はしているものの、相づちや返答の定着にはまだ課題が残ることが伺える。

「英語授業に関する意識調査」より抜粋

N=30

質問項目	あてはまる	ややあてはまる	あてはまらない
授業(IT含む)で、積極的に英語を使おうとしている	17	13	0
間違いを恐れず、積極的に自分の考えを伝えようとしている	10	20	0
チャットやペア練習の時、日本語を使わずに英語のみで話そうと意識している	20	10	0
授業の際、ちょっとした場面においても英語を使おうとしている (後ろの人にプリントを渡す、忘れ物を先生に伝えるなど)	21	8	1
人前で英語を話す(プレゼンテーションややりとり)ことに抵抗を感じている	2	16	12
相手の英語にあいづちを打ったり、英語でリアクションワードを入れたりしながら聞いている	16	14	0

(3) 指導観

上記のような生徒観に基づき、本単元においては、以下の3点に重点を置いた指導を行う。

- ① 生徒の主体的な学びとなるような言語活動の設定を行う。
- ② 表現の幅を広げるため、発表の際に有効だと思われる言語材料（既習、未習を問わず）を毎時間扱う。
- ③ 発表の際の指導と併せて、聞き手の指導を行う。

・ ①について

コミュニケーションの目的、場面、状況を明確に設定する。

ALT の Kym 先生、Nadine 先生、Paschal 先生に、日本（観光名所、食べ物、日本独自のもの）のこともっと知ってもらうために、自分の紹介したいものについて Show & Tell を行うという場面を設定することで、生徒の主体的な学びにつなげるとともに、生徒の発想力を喚起したい。

また人前で発表するための事前準備とその練習時間を十分確保し、自信をもって自分の考えを発信できるようにさせたい。自分の考えが英語で聞き手に理解してもらえたり、反応が返ったりすることで英語を使ってコミュニケーションする喜びや人前で発表することへの抵抗感を無くし、生徒の主体的な学びのさらなる向上へと結びつけていく。

・ ②について

自分の紹介したい場所や物について、その特徴等を具体的に示すために役立つ既習、未習の表現がないかを判断させ、それを活用することで、表現の幅を広げさせるようにする。さらに、教科書本文以外の紹介文等を読み、そこから活用できそうな言語材料を見つけさせることで、Show & Tell で使用できる表現の増強をねらう。このことは、英語で表現することの楽しさの実感にもつながると考える。

・ ③について

ペアやグループでの活動の際に、相手の発言や発表に対して、何かしらの質問をしたり、感想を述べたりするなど、適切な応答ができるように指導する。このことについては、帯活動でのチャット練習や、リアクションワードをまとめた表現シートを通して定着を図る。

以上のような工夫を通して、生徒に身に付けさせたい力を育むとともに、主体的な学びを喚起したい。

5 単元の目標

(1) ある場所や物について、その特徴等を示しながら、口頭で紹介(Show & Tell)する。

→ 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標との関連 話すこと[発表]

(2) 自らの学習を調整（身振り手振り、知っている語句や表現を活用）し、最後まで粘り強く取り組む。

[学習到達目標（第1学年終了時の目標）]

外国語表現の能力		外国語理解の能力	
話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
[やりとり] 食べ物やスポーツなどの好き嫌いなどの情報をやり取りすることができる。	好きなことなど、自分に関する情報を正確に書くことができる。	はっきり話してもらえば、簡単な指示を聞いて、適切に応じることができる。	駅や商業施設などにある簡単な表示を見て、その意味や意図を理解することができる。
[発表] 好きな食べ物やスポーツなど身近な話題であれば、即興で相手に伝えることができる。			

6 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化につい ての知識・理解
自らの学習を調整(身振り手振り、知っている語句や表現を活用)し、最後まで粘り強く取り組んでいる。	ある場所や物について、その特徴等を示しながら、口頭で紹介(Show & Tell)することができる。	/	/

7 単元指導計画・評価計画(全8時間)

時	学習内容 (○ねらい・学習活動)	評価規準	評価方法
1	○ 本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・ 最終ゴール(パフォーマンステスト)を理解する。 ・ スピーチ映像を見せ、イメージをもつ。 ・ 本文Part1から、Show & Tell に活用できる表現を見つける。 ・ 質問に答える形で Show & Tell の中身を考える。		
2	○ 本文Part2から、Show & Tell に活用できる表現を見つける。 ・ Show & Tell のキーワードを書き出し、練習をする。		
3	○ 本文Part3から、Show & Tell に活用できる表現を見つける。 ・ Show & Tell のキーワードを再構成し、練習をする。		
4	○ 本文Part4から、聞き手としての反応に活用できる表現を見つける。 ・ 聞き手の反応に意識を置いた Show & Tell の練習を行う。		
5	○ ある場所や物について、その特徴等を具体的に示したShow & Tellの練習をする。 ・ 教科書以外の英文から、Show & Tell に活用できる表現を見つける。	ア	活動観察
6	○ ある場所や物について、その特徴等を具体的に示したShow & Tellの練習をする。 ・ 教科書以外の英文から、Show & Tell に活用できる表現を見つける。	ア	活動観察
7 (本時)	○ ある場所や物について、その特徴等を具体的に示したShow & Tellの練習をする。 ・ 教科書以外の英文から、Show & Tell に活用できる表現を見つける。	ア	活動観察
8	○ グループ内で、即興でShow & Tell を行う。 ・ 相手の話したことについて、感想を述べたりする。	ア	活動観察
後日	○ パフォーマンステスト ・ ALTに Show & Tell を行う。	ア,イ	パフォーマンス テスト

(観点別評価の進め方)

ア 自らの学習を調整(身振り手振り、知っている語句や表現を活用)し、最後まで粘り強く取り組んでいる。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(1) 評価方法

第5～8時のShow & Tell の活動及びパフォーマンステストにおいて、それぞれ観察を行う。

(2) 評価の決定

・活動への取組の様子を観察し、

分らない表現等があっても、身振り手振り知っている語句や表現に置き換えるなど自らの学習を調整し、最後まで英語で話そうとする粘り強さが見られる場合、○

分らない表現等があった場合、すぐ諦め日本語を使用したりするなど粘り強く話すことに取り組んでいない場合、×

と判断した。

- ・パフォーマンステストも含め、5回の評価結果について、徐々に自信をもって課題に取り組んでいることを考慮し、

- 〔 5回中、3回○の場合、「概ね満足できる」状況「B」
- 〔 5回中、全て○の場合、「十分満足できる」状況「A」
- 〔 5回中、○の数が1、2回しかない場合、「努力を要する」状況「C」

とそれぞれ判断した。

- (3) 「努力を要する状況」 「C」 と判断した生徒に対しての手立て

紹介したいことを整理、確認した上で、適切な英単語や表現を挙げさせることや辞書を積極的に活用するように声かけや支援をする。

イ ある場所や物について、具体的な特徴等を示し、口頭で紹介(Show & Tell)することができる。(外国語表現の能力)

- (1) 評価方法

パフォーマンステストで、紹介内容を評価する。

- (2) 「概ね満足できる」状況 (B) と判断した具体例

Hello. This is a picture of Miyajima. It's a famous ... place in Hiroshima. (The) Torii is a symbol ... of Miyajima. If you go there, you can see many deer. They are very cute. And you can eat momiji *manjyu*. It's a Japanese sweet like a pound cake. It's delicious. Many people love it. Thank you.

⇒紹介する物の特徴等を具体的に示し(最低5文)、自分の考えを追加している。文構造や発音の不正確さや不完全さが若干見受けられるものの、既習、未習表現等を自分なりに活用しながら紹介し、聞き手に伝えたい内容が正確に伝えられているなら、「B」とする。

- (3) 「努力を要する状況」 「C」 と判断した生徒に対しての手立て

ALT からの評価を受け、改善策や今後の見通しをフィードバックする。その際、具体的な表現の提示や表現方法等を助言し、次につながるような指導に努める。

8 本時について

- (1) 本時のねらい

ある場所や物について、その特徴等を具体的に示し、show & tell の練習をする。

- (2) 本時の評価規準と具体的な生徒の姿

観点	評価規準	具体的な生徒の姿
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	自らの学習を調整(身振り手振り、知っている語句や表現を活用)し、最後まで粘り強く取り組んでいる。	分からない表現等があっても、身振り手振りを行い、知っている語句や表現に置き換えるなど自らの学習を調整し、粘り強く最後まで英語で話そうとする。

- (3) 本時の指導過程と評価

時間	学習活動	◇ 指導上の留意事項 ◆ 「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て	評価規準 (評価方法)
10 min	<u>Belt-Activity</u> ○ presentation of today's teacher ○ chat 与えられたトピックについて、自分の意見やその理由を伝える。また相手の意見に対する応答も行う。	◇ 回数を重ねる毎に、少しずつ自信をもって話ができるよう、ペアを変えてchatする機会を数回設定する。 ◇ 聞き手にも、積極的に話し手に耳を傾け相づちや質問などの反応することができるよう事前に確認をする。	

		◆ 活動中、机間指導を行い、個別に支援する。	
37 min	<p>○ 単元、本時の目標の確認</p> <p>○ 「ALTに日本のことをもっと知ってもらうために口頭で紹介（ Show & Tell ）する」 ことについての確認する</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">Today's goal: to tell about something or somewhere in detail</p> <p>Introduction of useful expressions</p> <p>○ reading the model Show & Tell のモデル文を読み、内容を読み取る。</p> <p>○ Reading the text aloud モデル文の音読練習を行う。 ・コーラスリーディング ・バズリーディング ・センテンス読みをしながら、内容把握をする。</p> <p>○ checking the expressions Show & Tell の際、活用できそうな表現を見つけ、全体で共有する。</p> <p>Practice for Show & Tell</p> <p>○ rewrite the keywords ALT に Show & Tell をする内容についてのキーワード等を再確認する。</p> <p>○ practice with a partner ペアになり Show & Tell の練習をする。</p>	<p>◇ 単元の目標達成に向けて、生徒自身に単元目標を問い、主体的に取り組めるように意識付けを行う。</p> <p>◇ 様々な音読練習を取り入れることで、本文の理解につなげるとともに、生徒が Show & Tell をする際に活用できる表現を自信をもって言えることにつなげる。</p> <p>◇ これまで確認してきた Show & Tell をする際に活用できる表現を使用することや、発表構成を考えることなどを改めて意識付けをする。 ◆ 必要であれば、辞書を引かせる。</p> <p>◇ 聞き手がいることを意識して発表するよう意識付けをする。 ◆ 練習中、机間指導を行い支援する。</p>	
3 min	<p>Consolidation 本時のねらいが達成できたかを確認する。</p>		ア (観察)